

## 中小企業街道の宿場町を繁栄させるか…新会社法の施行

されることはございませんが、景気回復のためにはまだ仕事があると発表したが、その実感が得られないことがあります。ただ、最近話題の企業経営者が嘆いていた「いつかはまた出でてきたい」といふ言葉が、確かに現実にならぬものではあります。たゞ、このままではなかなかつまらない新興産業関連企業にならぬことは、どうやらわいわいとしたところの期待や、感動をもたらすのでした。

新しい時代に向けた  
新会社法が施行される

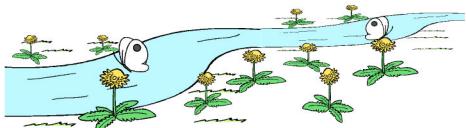
リスク・カウンセラー &  
ファイナンシャル・カウンセラー

# Information & Report

2006. 04. 19 Vol. 2006-04

【ちよつと感想】

春の小川はサラサフ行くよーと、小川の土手にも、野にも、街の公園にも、街路樹にも、鉢植えの草木にも、瑞々しい緑が萌えて春の息吹を感じさせてくれる。夜の公園散歩で、幾重にも重なるケヤキの梢を透かして星を仰ぎ見る、ことが出来たのに、今では細い梢の先ほどもビッシンリ若草色に芽吹き、まるで薄緑のレースのカーテン越しに、から見た空のよう、優しく震んで見えるのです。新芽の成長が始まると、清明の候には、辺りがギラギラ輝き、春の氣分だ。雨上がりの朝の草木の芽は特に美しい。春先の雨を穀雨、「催雨」と云うが、草木の成長に欠かせない雨のみの雨として名付けられたのだらう。春雨しゃ～濡れて参るう・（細野）



駕籠の前肩を担ぐ経営者?  
後肩を担いでいたのは誰?

「会社を整理しよう！」と見切りをつけた決断した時、「何だか肩の荷が下りたようです。お陰様で：すつごく楽になりました。今までの苦しさは一体何だつたのです。だらう」と静かにしみじみと語ります。「駕籠に乗る人、担ぐ人、そのまた草鞋をつくる人」と、それぞれの境遇や役割、立場の違いとそれぞれの関わりを比喩した言葉があります。私には、「駕籠（会社）に乗る人（資産と負債）、担ぐ人（社長と役員）、そのまま草鞋をつくる人（コンサルタント、税理士）」と見えてしまします。

乗る人：つまり駕籠の中身が何なのか、資産（お客様、商品、信用、実績、買社員、家族）と客、負債（手形決済、買掛金、金融機関や街金融から形の借り入れ、債務証券債務、株主からの圧力など）があります。から降ろされ、駕籠の前に並べられる人（社長が決断したとき、「駕籠に乗りた人」）はこの日まで苦労して歩いてきた永遠

**他人から駕籠の中が見えると…  
余分な荷物を担がなくなる?**

重い重いという思いをしながら：気がついたら一人で想いでいた：一人では想

税理士や公認会計士が会計監査に参加すると、金融機関はもとより取引先からの信頼が高められることになります。当然のことながら「デイスクリーズ経営」が行われるわけですから駕籠(会社)の中身は外から見えになります。会社に負債があるからダメなのではなく、資産と負債がバランス良く存在していくことが大切なことなのですから、財務内容を開示出来る経営姿勢になることが企業としての信頼を高めることになります。街道の宿場から宿場へと、大きな駕籠、小さな駕籠:と、前後の駕籠を見ても車いすの音が合ったときの駕籠が軽快に行きました。宿場には多くの人々が笑顔で、そんな集まり幸せそうな顔、顔、顔:、そんな光景を思い浮かべながら中小企業経営への応援を続けていきたいのです。

ぎきれない」と觀念して仕方なく駕籠を下ろすことになるなど、担ぎ手はもうボロボロの状態になってしまいます。塗装塗りの豪華な作りの大駕籠を二人で担ぐには無理がある筈です。ましては一人駕籠ではおさらの竹で編んでも簡単な駕籠でも十数分に運ぶことが出来るのです。外から見えないようすに秘密裏に運ぶとか、そういうふうなと駕籠にしつかりした覆いをつくることになりますので、当然駕籠は重くなってしまいます。

「新会社法の施行」と併せてよく耳にする「会計参与制度」や「ディスクローズ」「情報開示」「経営」「駕籠」などの中身が見えるように、経営者に最も必要なことと理解されるものだと思います。



最近のマイブームは水耕栽培。100鉢でガラス容器と気泡性のセラミックカーボンを調達。コンビニで300円の球根を買い植えたのですが、花の名前を書いた紙を紛失。楽しみ一つ増えました。

## ●消費者金融の有効的な活用法ってあるの?

大手の消費者金融●●●●が違法な取り立てをした…ということで業務停止処分が下されたと報道され、再び消費者金融のあり方が問われています。一方、相変わらずテレビCMでは「気軽にサラ金を利用しましょう~」とばかりに連日甘いお誘いが続いている。どのように理解したらいいのか…。

個人が債務超過の問題を解決したいという相談の場合、殆どと言っていいほど数社の「消費者金融」からの多重債務の借入となっています。相談者の年齢、家族構成、勤務先、地位、年収、不動産の有無などによって借入債務額に大きな違いがあります。債務額を一覧表にして整理していくうちに、何でこの人がこんなに借りられたのか…と驚くほどの借金額になっていることもしばしばお目にかかります。

月収が30万円の人がサラ金から500万円を超える借金をしている事例もあり、年利29%の借金を本当に返済できる当てがあって借りていたのか…大きな疑問でした。

お金を借りる場合、どこから、何の目的で借り入れするかで金利は大きく違ってきます。住宅ローンなら銀行から年利1~4%、自動車ローンなら5~9%、銀行のカードローンだと8%、銀行系金融会社から借りると年利16%、消費者金融から借りると年利29%です。

18歳以上で定職があり、加盟している「信用情報センター」に照会し、事故がなければ殆どの人が借りられます。もちろん初めは少額の20万円から…きちんと返済をしているとサラ金会社の方から「枠が空いたから…」と融資のお誘い電話が入ります。そうして、気がついたら1社のサラ金だけで100万円を借りていた…ということになるのです。

## ●返済のメドが立てられない借金返済

銀行のカードローンで50万円借り5年間で返済すると元利合計金額61万円を支払うことになります。これがサラ金になると、なんと95万円を支払うことになります。500万円だと950万円です。1年間の利息の支払いだけでも100万円を超えてしまいます。年収360万円の収入では、生活費を差し引いてしまうと…どうやっても返済できるはずありません。

約束している返済日の期日が過ぎると、翌日には自宅か携帯電話に催促の電話が入ります。優しい声で…お支払い日が過ぎておりますが…と、とても丁寧な言葉で確認電話が入ります。そのまま放置しておくと、今度は勤務先に電話を掛けたりします。もしも不在の場合だったり居留守を使っていたりすると「××××-××××の●●に電話をくださるようお伝え…」と会社名は云わず●●と個人名を名乗って伝言を依頼して電話を切る。当然、本人はどこの会社からどんな内容の電話だかは分かっているのだ。こんな時は、自分の方から先に、○日に遅れてしまうけど…と、電話しておけば会社にまで電話を掛けてくることはないのに…。

そんな電話が毎日のように携帯電話や職場にかかると「何とかしなければ…」「このままではブラックになってしまう…」と、また別のサラ金に行って借り入れをして穴埋めをするようになる。

返済を放置していると、自宅や勤務先に電報が届けられるようになり、電話をしてくるときも「●●●●ですが…」と家族にも督促内容を具体的に話してしまう。追い込みはますます厳しくなる。連日電話があり訪問してくるようになる。

## リスク・カウンセラー奮闘記・23

家族も対応に困惑する。サラ金担当者としては返済してもらえばいいのであって、ご家族が代わって返済してくれるのであればもっけの幸いなのです。

## ●多重債務者の懲りない行動と…躁鬱病

家族に知れてしまったのでは覚悟を決めなければなりません。借金は全部で幾らあるのか…?。請求書や督促状を整理して一覧表をつくります。サラ金以外にも信販やクレジットカード、銀行のローンカードなどが必要後から出てきます。信販カードやクレジットカードの決済をするためにサラ金から借金をする…というプロセスがあるからです。家族の前では500万円だったのが…私が手伝って整理しながら趣味の話題に説いていくと、信販で〇〇を購入した…という具合に古い債務がでてきたりして、後から100万~300万円が加算されることもあります。

7~800万円のリストを前にして、家族を交えて話し合うことになります。親族に経済的に幾らかでも余裕がある場合などは、親族が代わって弁済してしまう事例もありましたが、親族が代わって弁済した事例の債務者は再び同様の借金をつくってしまう場合が多々あります。何のために家族が弁済したのか…本末転倒の事態となってしまいます。

何故って…、債務を抱えていた本人は、何処のサラ金にも債務が残っていない優良なお客様となっているからなのです。

幸か不幸か…残念ながら、別のサラ金に行けばすぐにでも借入が出来るようになるのです。

ここで提言です。

「気軽に借金をする…」という本人の意識の根本となっているものを追及し、その原因を治してゆくことが大切だということです。

私が、こうした相談者とリスク・カウンセラーの立場で接して感じるのは、本人の精神的な弱さや、時には「躁鬱状態」を繰り返している中のある時期に、「買い物依存症」の芽がふくらみ、それを満たすために借金をするといった行動になっていることを強く感じます。

ですから、家族であったならば…、債務を代わって返済したり、債務者本人を叱りつけたりすることよりも、それらの相談を精神科医にすることが適切である場合も考えられますので、注意深く見守ってあげて欲しいものです。



小さな花壇にも春がやってきました。昨年の秋から土しか入っていないような状態でしたが、石神井川の桜が咲き始める頃、静かに芽を出して期待通りに愛らしい花を咲かせてくれます。

公園の花壇は色とりどりの花が咲き始めました。中でも昨年末に植えられた「葉ボタン」の茎がズンズン伸びて黄色い花の花を咲かせ始め、生まれたてのような蝶が羽を休めていました。

